

# 第1回ジオパーク下仁田協議会産業観光部会（顛末）

日時 令和8年3月30日（火）午後7時00分～8時00分

場所 下仁田町自然史館・ミーティングルーム

所 属	氏 名	出・欠	所 属	氏 名	出・欠
神津牧場場長	山崎 正史	出	下仁田町観光協会代表理事	神戸 康宏	欠
下仁田ジオパークの会副会長	森川 恵美子	出	商工観光課商工観光係課長補佐	並木 将貴	欠
下仁田町商業協同組合副理事長	今泉 浩之	欠	農林課農業係課長補佐	神谷 哲男	欠
全国こんにゃく原料協同組合 顧問	岡野 則行	欠	県境中小企業診断士事務所	芦田 健一	出
上信電鉄(株)取締役鉄道部長	小島 博	欠	地元農業関係者「殿屋」	山田 夏樹	出
下仁田ジオパークの会役員	黒沢 雅史	出			
商工会青年部部長	関口 貴裕	出	協議会事務局長	荻野 文昭	出
商工会女性部副部長	高橋 貴美子	欠	協議会事務局	神戸 進一	出
飲食店組合理事長	佐藤 二郎	欠	〃	関谷 友彦	出
地元農業関係者	山田 正幸	欠	地域おこし協力隊	吉朝 開	出

1 開 会 神戸（事務局）

2 挨拶 荻野（事務局長）

3 協議事項 司会進行 山崎（部会長）

(1) ジオパーク再認定審査の結果について（関谷（事務局））

審査結果について説明。

【委員】具体的な覚書の内容は？下仁田でイベントを行っているような団体とも覚書が必要ではないか。協定の目指すべきところを明確にして考える必要があるだろう。

【事務局】役割分担を明記したうえでの覚書を考えている。現在行っているジオパークブランド認定も覚え書きであり、それ以外での覚書もこれから取り組むべき内容であると考えている。

(2) 新規ブランドジオパーク商品認定について（神戸（事務局））

新規の申請には問題ないことが確認された。

【委員】下仁田ネギ自体をジオパークブランドにならないのか。

【事務局】下仁田ネギをブランド化できたらいいが、どういった形にするか問題点がある。参考に、かつ井はジオパークに関連した話題であり、かつ井の会とかたちになっている。

【委員】ネギだと加工品の方が認定しやすいのではないか。

【委員】ツアー自体を商品、ジオパークブランドにしてみたらどうか。

【委員】認定商品が毎年増えているが、認定されたらどうなるのか。どこかでPRするなど必要ではないか。

【事務局】現在は、HP、ブランドチラシの配布などを行っている。ジオパークネットワークイベントなどにも出店している。ただ、回数が少ないため、具体的

に利活用できるように考えていく。チラシの改訂も含めて考えていきたい。

(3) 今後の計画について（関谷（事務局））

2026年は次年度からの5年間の計画を作る年である。5月末には再審査の現地調査員に来ていただき、審査結果についてかみ砕いて説明していただく予定である。

4 次回の部会開催について

上記の現地調査員の意見を聞いた後6月に行う予定である。

5 閉 会